



編集発行 第23号
群馬県立桐生工業高等学校
桐生市西久万町1-1-41
TEL (0277) 22-7141
FAX (0277) 46-4703
同窓会事務局 編集部
印刷 株式会社大間々印刷

会長挨拶

同窓会で新車購入し
寄贈

会長 蛭間謙次



今年夏は特別に暑い日と節電が大変な季節でした。そして、秋も深まりましたが、同窓会員の皆様は体調も順調に回復し、益々ご清栄にてお過ごしのことと推察申し上げます。

過日の東日本災害では、ご親戚の方やお知り合いの方が、大変なご苦労をされた方も多かつたのではないかと察せられます。心からお見舞い申し上げます。桐生の生徒も校長や先生方に引率され、各科に分かれて現地に出向き、清掃作業や瓦礫の撤去作業に参加し、生涯で体験できない多くの事を学んだと同っております。校長や先生方のご配慮やご理解に感謝申し上げます。

理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

さて、今年も3つの大きな事業を計画し、過日の総会で承認をいただきました。その1つ目は桐雷研究助成であります。この事業の目的は、教職員の自発的な研究を奨励し、助成することにより、生徒の教育活動を充実・発展させることです。先生方から7件の応募がありました。6件を承認し助成いたしました。この研究の成果と生徒の積極的な研究への参画が期待されるところであります。

2つ目はマイクロボスの購入であります。このマイクロボスの使用目的は、公式試合や練習試合等部活動で生徒の諸々の教育活動に利用するためであります。聞くところによりますと、群馬県内の高校で、昭和の年号のついたマイクロボスが走っていた高校は、桐工のみだったそうです。現在3台のバスが活躍していますが、古いものは昭和62年に同窓会が購入し、寄贈した物件です。この車は傷みが激しく、いつ故障しても不思議ではありませんでした。新車の購入は総会で承認され、9月の下旬に納車されました。大いに活用され多大な成果を期待しています。

す。会員の皆様には貴重な資料や写真等お持ちだと思っております。お貸し願いたいと思っております。

校長挨拶

同窓会の皆様へ

校長 豊島卓司



同窓会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと拝察申し上げます。日頃から母校に対するご支援・ご協力に對しまして、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、3月11日の東日本大震災での、母校における人的被害は幸いなことに無く、施設に若干の被害が出た程度で済みまし。今回の地震では、いざという時のために作られている「災害マニュアル」も、現実に直面すると見直す必要性を感じる部分もあり、入念なチェックのもと、4月に激震を想定した避難訓練を実施いたしました。訓練終了後に、私から生徒に対して「震災ボランティア」の呼びかけをいたしました。多くの生徒が是非現地で活動したいとの申し出がありました。

取り組む方針を示し、去る6月9日から7月12日まで9回、延べ400人近い生徒・職員が、日帰りで宮城県の岩沼市において活動をいたしました。主な活動は、津波で被災した病院等での泥かきや瓦礫の撤去・運搬作業でありましたが、生徒は本当に熱心に取り組むことができました。

ボランティア活動終了後、各職員からの報告は、全て生徒を賞賛するものばかりであり、現地での生徒の活躍ぶりを高く評価しておりました。また、生徒自身も「少しでも役に立ちたい」との共通の思いでの参加でしたので、決して手を抜くことなく活動に従事し、困難な作業もありましたが、それを克服した充実感に溢れていたようでした。被災地域全体から見れば僅かな部分での活動ではありますが、少しでも役に立てたものと確信するとともに、生徒の素晴らしさを改めて感じ取ることができました。なお、今活動に際して、同窓会から多くのご援助をいただいたことに御礼申し上げます。

また、今年度は同窓会よりマイクロボスの新規寄贈をいただくとともに、教員に対する研究助成制度(桐雷研究助成)を制定していただき、本当にありがたく感謝に堪えません。研究助成では、6名の教員の多岐にわたる研究領域に對してご援助いただきました。昨今の予算の減少に伴う教員の研究や教材開発等の縮減傾向が、工業高校の活性化に對して物心両面でのマイナスイメージであることは言うまでもありません。そのような中、本校の教員は自らを磨く機

会が与えられ、その成果を生徒に還元できることが一層充実されます。この助成制度は、本校に勤務する全ての教員が対象であり、志のある教員は誰でも享受することができます。本校の活性化に大きく寄与するものと確信いたします。

母校も、平成26年には記念すべき創立80周年となりますが、「80周年記念誌」の準備段階である資料集めも、担当職員を中心に着々と進めております。

諸先輩が築いてこられた良き伝統を踏まえつつ、地域産業の担い手としての生徒の育成に尚一層努めてまいりますことをお約束し、挨拶とさせていただきます。

開校記念講演会

本年度の開校記念式典は、大妻女子大学、キャリア教育センター教授の赤石雅英先生にお願いいたしました。

今回は「曲がり角の先に見えてくるもの」桐生の未来は桐生が決める」という演題で講演いただきました。

かつて、ものづくりで栄えた桐生が、ここ10数年アジア企業との熾烈な競争に直面し、多くの製造関連企業が苦境に立たされています。今まで緩やかな下り坂を下ってきた群馬経済は、大きな曲がり角に差し掛かっている。曲がり角の先に見えるのが、再び頂点を目指す上り坂なのか、それとも奈落の底へと続く下り坂なのかは、今後の君たちの働きにかかっているとお話いただきました。

総会

● 期日
平成 23 年 6 月 18 日 (土)
● 会場
桐生市市民文化会館
4 階スカイホール

今年度は77名の会員の方々に出席いただきました。

一部総会では、平成22年度事業報告、会計報告、監査報告、支部活動状況報告。平成23年度事業計画案、予算案、役員変更承認。会則一部改正(同窓顧問の賛助年会費は概ね80歳まで)、教育助成金の増額、マイク〇バス購入・学校へ寄贈も承認いただきました。

役員変更は、常任幹事に板井政夫氏26M、森田良徳氏40E②、顧問に鳥塚啓二定時制教頭を承認。今年度の同窓会表彰の該当者は8名で、それぞれに記念品として銀盃が贈られました。



一部講演会が3年ぶりに復活、本校の佐々木正純建設科長に「東日本大震災と桐生の街並み」と題して3月11日の巨大地震・桐生市震度6弱で受けた被害状況と生徒の宮城県でのボランティア活動の報告をしていただきました。桐生で外観上認められる建物被害は2600棟を確認し、棟瓦や壁などの被害が多いことなどの報告でした。

三部懇親会で、デビュー25周年の演歌歌手45A早川晃司さんに新曲「かなかな」を歌っていただきました。



親善ゴルフ大会

桐生カントリークラブ

今回で20回目を迎え恒例となった「親善ゴルフ大会」が8月28日(日)、桐生カントリークラブで行われました。本年も159名と、県内はもとより県外支部からも多くの参加があり、盛大に開催されました。

大会結果を報告いたします。

◆ 団体戦(上位3位、ネット合計)
優勝 大間々支部 357・8
準優勝 敷塚支部 359・6
3位 第15支部 363・2



団体優勝
大間々支部

◆ 個人戦(上位5名、ネット合計)
優勝 星野鐵夫 68・4
準優勝 新居喜一 68・6
3位 大澤 清 69・6



個人優勝
星野鐵夫氏

◆ ベストクロス賞
一般 二渡富雄 77・0
シニア 田島義弘 78・0

支部活動報告

埼玉支部

支部長
鈴木栄次

◆ 平成23年度支部総会
日 時 平成23年3月13日(日)
10時～
出席者 15名
(本部3名・支部12名)
会場 GG大会
(熊谷荒川緑地広場)

※参加者全員に賞品
《定期総会》
レストラン華屋与兵衛
熊谷温泉・湯楽の里

東日本大震災(3月11日)の2日後でしたが、皆さんのご協力ですべて無事終了しました。

◆ 第27回支部ゴルフ大会
期 日 平成23年7月7日(木)
参加者 7名
コース 上武ゴルフ場

◆ 第28回支部ゴルフ大会
期 日 平成23年8月7日(日)
参加者 6名
コース サンコー72CC

◆ 第20回桐工同窓会ゴルフ大会
期 日 平成23年8月28日(日)
参加者 159名(埼玉支部7名)
コース 桐生CC

中部支部

事務局
植木久夫(35W)

中部静岡両支部の第15回合同総会を5月21日午後4時より犬山市のサンパーク犬山で開催しました。総会は桐生本部より蛭間謙次会長・豊島卓司学校長・百海晃弘事務局長、関西支部からは小山将史幹事に臨席頂き、静岡支部は松

村元夫支部長の他4名、中部支部は蛭間章雄支部長の他15名、総勢25名で震災被災者への黙祷の後に、次第に沿って事業・決算の報告が円満に可決した後、来賓のご祝辞を戴き、定刻通り順調に終了しました。6時より懇親会が始まり、日頃の想いを語り合い、親交を十分に深めました。翌日、昭和40年に開村した「明治村」を見学し、昼食の後散会しました。今回、当支部は開催地が近い事が幸いし、出席者が増加しました。

最後に、学校ホームページ上に同窓会のページを開設しました。遠地支部の事業推進や増員活動の活力にしたいと思っております。



関西支部

幹事
松島忠博(37M)

定年退職をし、早くも8年目を迎えた。まさに『光陰矢の如し』である。思えば会社時代に、工務・研究開発・生産・事務系等幅広く業務に携わっていた。時には多くの部下を抱えたこともあった。早朝より夜遅くまで仕事に専念し、神経をすり減らし頑張ってきた。そんな訳で60歳で潔く会社を辞めた。趣味の渓流釣りやカラオケ等、楽しみながらのんびりと半年を過ごした頃、物足りなさを

感じ、何かに挑戦してみようと思いたち、現役時代から関心があつた『健康』について学んでみようと思つた。健康教育を受講し、健康管理士一般指導員という資格を習得した。その資格を生かして、自治会の催しで健康講話をしたところ、大変喜ばれた。

私もこれを機に、約40年吸っていた煙草を、すばとやめた。早寝早起きを心がけ、朝一杯の水を飲み、バランスの良い食事を摂り、軽い運動を行うよう心がけている。献血を1回400cc、年3、4回行っております。健康診断の結果も異常なく、頗る健康に推移している。メンタル面では、公民館活動の一環として、短歌サークルをつくり、月1回の勉強会に参加し、四季の移ろいにも関心を持ち、拙いながらも楽しんでる。最近、俳句サークルにも顔を出し、折りをみて将棋にも興じています。

一方で、地域の福祉委員長として微力ながら尽力して、敬老会、文化祭、生きいきふれあい広場等々に参加し、昔取った杵柄で、ハーモニカ演奏やクイズを試み、楽しんで貰っている。無縁社会と言われる昨今、こうした地域住民との交流や活動は、円滑な人間関係形成の上でも、意義のあるものと痛感している次第である。高齢化が益々進む社会に於いて、これからは『健康長寿』が必須と考える。即ち『元気で、長生き』そして『楽しく』生き続けること、これが私の望みである。可能なら、国内の渓流を津々浦々釣り歩き、『セカンドライフを生きたい』と過ごしていきたいと思っている。

学校だより ①

ボランティア活動

学校での事前指導やバスの車中指導では、ボランティアに行っても少くも役に立ちたいという気持ちにはもろもろあつたが、それ以上にどんな態度でいたらいいか見当がつかず少し不安だった。あまり深刻な顔をして行くのも現地の人には喜ばれないだろうし、行き過ぎた元気さは逆に失礼になるので、自分なりに「前向きに」という気持ちで臨んだ。

現地の活動ではテレビで見えた惨状を目の当たりにして、少し呆然としてしまつたが、すぐに気を取り直して活動に取りかかった。印象に残つたのは活動した場所が外の倉庫のような場所、イベント用の道具や飾りつけのものが破壊され、泥に押しつぶされて無残な様子だったことだ。きつと病院の人たちや患者さんたちが作つたであろう、飾りつけやオーナメントが泥の中から出てくると、何とも言えないショックを受けた。

でも積極的に作業に臨めたと思う。現地の作業場については、その時、帰る間際の時ではだいぶ泥やがれきが片付いたと思つたので、少し満足に感じた。

また機会があつたら、積極的にボランティアに参加したいと思つた。



定時制の現況について

定時制教頭 鳥塚啓二

同窓生の皆様、定時制教育におきましても変わらぬご支援とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。今年は東日本大震災を契機に防災に関する教育を行つていまして、4月には夜間での地震を想定し、停電時の避難訓練を実施しました。真つ暗な中を教本の懐中電灯だけで避難する難しさを思い知りました。また、6月には全日制と一緒に被災した宮城県岩沼市へボランティア活動に行つてきました。自然災害の怖さを知ると共に、一人の力は小さいが皆で協力すれば大きな成果が上げられることを実感しました。

部活動では軟式野球部と陸上競技部が全国大会への出場を果たしました。軟式野球部の全国大会は兵庫県立香風高に負けはしましたが、8月酷暑のスタジアムで元気に活躍してくれました。また、陸上競技部も全国大会で自己ベストを出し、来年に期待出来る結果となりました。

定時制の在籍者数は現在78名です(1年24名・2年16名・3年23名・4年15名)。働き、勉強し、スポーツにと汗を流しています。今後とも温かく、そして厳しくご指導・ご助言くださいますようお願い申し上げます。



機械科

機械科では、資格取得とものづくり教育の指導に力を入れています。資格取得の実績は、技能検定3級(機械検査38名)、普通旋盤11名、マシニングセンタ18名)、危険物取扱者試験乙種4類35名等です。ものづくりの実績は、全日本ロボット相撲関東大会高校の部ラジコン型4位(全国大会出場権獲得)、群馬県産業教育フェアアイデアロボット競技大会4位・相撲ロボット競技大会自立型優勝・ラジコン型準優勝、またホンダエコマイレッジチャレンジに参加し、低燃費車の製作の研究をしています。

今後指導を充実し、生徒の更なる向上に努めていきたいと思っております。



電気科

電気科は、多くの資格に挑戦しています。昨年度、第二種電気工事士(毎年2年生全員が挑戦)は36名が合格(合格率92%)、ジュニアマイスターではシルバー12名、ゴールド6名、特別表彰2名と頑張りました。今年度も、多くの生徒が称号・表彰を目指して勉強に励んでいます。

7月末に行われた第7回群馬県高校生電気工事コンテストでは、3年の徳田君が初めての入賞(6位)を果たしました。来年度も後輩達の活躍を期待しています。また、群馬県生涯学習センターで行われた夏休みサイエンスウィークでは「エネルギーと環境学習にチャレンジ」というテーマで出展し、子ども達に楽しく学んでもらいました。設備面では、予算が厳しい中、最新のデジタルオシロスコープを8台購入でき、電子回路実習も益々充実してくると思っております。

建設科

建設科22年度の活動のうち、調査研究と測量コンテストについて報告します。

建築の調査では大間々の街並みに注目し、聞き取りと実測調査をしました。その成果を「蔵の町・大間々」と題した町歩きマップにまとめました。それをみどり市は大量に印刷し、日本語版4万部、英語版・中国語版各2万部を観光案内所や駅などに配布しました。ぜひ手にとって町歩きを楽しんでください。

土木の平成23年度ものづくりコンテスト測量部門大会は、8月19日に高崎工高を会場として高工前工、桐工、利根実の4校、7チーム21名が参加して行われました。

競技は、一辺が30m程の五角形閉合トラバース測量の角度・距離観測およびデータ処理計算の速さ・正確さを競つものです。



染織デザイン科

桐工「染織デザイン科」は、「染め、織り、デザイン」を学ぶ、全国でも数少ない学科です。また、「織の都、桐生」で「織り」を学べることは浪漫溢れる素晴らしいことです。

「染織デザイン科」では、簡単なデザイン画や織りもの・染めものから、長さ4mを超える大作のタペストリーまでセンス溢れる作品を制作し、それらを年一回の卒業制作展で一般の方々に公開しています。

今年度「染織デザイン科」の新しい試みとして、染織デザイン部の生徒・職員が製作した手織りのコースターやテーブルクロス、マフラを9月の「買場紗綾市」に出品しました。一般の方々に喜んで使っていたら、製作品を作った生徒・職員も成就感を得られ、自信と励みにつながりました。これらのことは、同窓会から助成金を頂き、材料費に充てることのできたので実施できました。

あらためて、同窓会を初め「買場紗綾市」への参加を認めて頂いた地域の方々に感謝いたします。



学校だより 2

部活紹介

バスケット部

群馬のバスケット聖地「桐生」。伝統ある桐生工業高校で指導し、4年目を迎えました。「強いチーム」に共通することは、優先順位が「心・体・技」の順であるという事です。前任校でのベスト4以上の経験や、県選抜チームのコーチとしての経験から本番で力を発揮するチームや選手は、この順位がブレません。小手先だけ上手い選手やチームは、強いチームや土壇場には継続して力を発揮できないもの。我々のチームにはスーパースターも身長が高い選手もいません。しかし、たとえ「技」はなくても「心」といふこのチームと比べてもここだけは負けない「最低保証」を持っては、チームが勝つための「最大保証」となることを引退した3年生は見事に表現してくれました。私は、「魂のバスケット」を表現しなさいとよく言います。「魂のバスケット」とは「心」を全面に出すことです。その「魂のバスケット」で、市内の伝統校を「ひたむきにディフェンスを頑張り、ひたむきにボールを追う」高校生らしいバスケットで撃破し、5位入賞したときの選手の喜び姿に出会えたことは、まさに教員冥利に尽きます。彼らは常に高校生らしく審判や周囲への礼儀、気遣いを怠りませんでした。

プライドを持ち、礼儀を忘れず、自分やチームを仕上げていく、まさに「工業人」らしく育ってくれたと思っています。

新チームが始まり、主将を中心にチーム一丸となって最初の大会を迎えようとしています。「心」のある応援されるチームを目指し、魂のバスケットで価値ある勝利をもぎとり、古豪復活を成し遂げるために、選手と共に成長していきます。

最後に、バスケットボール部の活動に協力してくださる保護者やOBの方々、同窓会や先生方、この素晴らしい環境に感謝申し上げます。そして、バスケットボールを選んだ選手にも。「信じるは桐生魂!!」「頑張れ桐生!!」

少林寺拳法部

平成17年6月1日に、少林寺拳法連盟から桐生工業高校少林寺拳法部として認証されて以来、7年目になります。校内では平成21年にその活動内容が評価され、愛好会から部に昇格いたしました。今年の新1年生は7名が入部。現在3年生が引退し、2年生3名、1年生6名の9名で活動中です。初段2名、1級1名、2級1名、5級5名です。今年の新人大会には団体演武にも出場したいと考えています。平成18年に初めて関東大会に出場して以来、今年



で6年連続出場となりました。県内では130名ほどの高校生が修行しています。全国高体連加盟も果たし、平成26年にはインターハイ種目にもなる予定です。抛り所とできる自己の確立と、半ばは他人の幸せを考えて行動できる人づくりを目指して、生涯をかけるつもりです。

硬式野球部

部員51名(1年19名、2年10名、3年21名)の硬式野球部は、保護者会、OB、地域の方々などのあたたかいご支援の下、日々充実した活動を行っています。平日は20時過ぎまで基礎、実践の反復練習を行い、週末等の練習試合や年間3回の公式戦に向けて日々精進しています。また、シーズンを通じて「朝トレ」と称した心身の鍛錬にも精力的に取り組んでおります。

偉大な先輩方が残した実績は、残念ながらもはや過去の栄光になってしまっています。今後桐生野球の伝統を胸に、古豪復活を目指し、全力を尽くしていきます。これまでと変わらぬご支援をどうかよろしくお願いいたします。



陸上部

今年度の陸上部は、短距離9名

中・長距離9名で活動しています。

県高校総体では1500mで4位入賞、関東大会ではインターハイ出場はなりませんでしたが、1500mで決勝進出を果たしました。

現在では11月5日に行われる県高校駅伝に向けて全国大会、京都・都大路を目標に日々練習に励んでいます。最近では古豪と呼ばれるようになりませんが、少しでも早く強豪と呼ばれるよう全力を尽くします。これからも変わらぬご支援をどうかよろしくお願い致します。



事務局だより

同窓会表彰者(叙勲・褒章受章者・国の表彰受賞者)は、岩瀬勝弘氏32M(瑞宝単光章)、亀山憲明氏17W12(従五位)、朝倉眞純氏16D(瑞宝双光章)、佐藤富三氏17W12(旭日小綬章)、佐藤良男氏33M(旭日双光章)、後藤隆造氏31W(経済産業大臣表彰)、小林季二氏27W(従五位瑞宝双光章)、加藤常雄氏17W12(従五位瑞宝小綬章)の以上8名でした。

本年度も、桐生23号をここに発行することができました。今年度は3月11日に起こった東日本大震災の復興ボランティア活動に参加

役員交代(追加) 支部長 20D兵藤修一様(第11支部長) H23年5月21日に83歳で逝去 第11新支部長に高野信彦氏35E 弔慰・顧問 14W小川 宏様(顧問元校長) H22年11月24日に89歳で逝去 27W②小林季二様(顧問元校長) H22年11月28日に77歳で逝去 創立50周年時、桐生五十年史編纂でご尽力いただいた亀田光三先生 H22年12月18日に79歳で逝去 マイクロバスを学校へ寄贈 同窓会でマイクバスを購入、9月21日に桐生天満宮で安全祈願後、学校へ寄贈しました。

桐生高校OBの草野翔吾映画監督 全編桐生市で映画「からっぽ」を撮影。桐生工業高校も撮影に協力、生徒もエキストラで多数出演しました。来春、全国の劇場で公開予定です。



部活動振興関係 陸上競技部 関東大会、少林寺拳法部 全国大会、定時制陸上競技部 全国大会、定時制軟式野球部 北関東大会、全国大会、ソフト部 研究部 全国大会、山岳部 関東地区クライミング競技会の出場に對し部活動振興規程により、同窓会より激励金を贈呈しました。

させていただきました。参加生徒の率直な感想を掲載することになりました。今後日本の復興のため、桐生のため努力していきますので、ご協力よろしくお願い致します。

編集後記

本年度も、桐生23号をここに発行することができました。今年度は3月11日に起こった東日本大震災の復興ボランティア活動に参加